

第5回総合計画・復興計画策定検討部会 議 事 録

日 時 令和3年3月23日（火）
13時30分～15時00分

場 所 自治会館 3階 大会議室

福島県総合計画審議会事務局

1 出席者

(1) 総合計画審議会委員 計8名

川崎興太委員、横田純子委員、今野泰委員、西崎芽衣委員、前澤由美委員、岩崎由美子委員、岩瀬次郎委員、松澤瞬委員

※下線の委員はリモート形式による参加

(2) 福島県 計21名

危機管理部主幹兼副課長、企画調整部企画調整課主幹、避難地域復興局避難地域復興課主幹、文化スポーツ局総括主幹兼副課長、生活環境部企画主幹、保健福祉部保健福祉総務課主任主査、商工労働部企画主幹、観光交流局観光交流課長、農林水産部企画主幹兼副課長、土木部企画主幹、出納局主幹兼副課長、企業局主幹兼副課長、病院局主幹兼副課長、教育庁企画主幹兼副課長、県北地方振興局企画商工部主幹兼副部長、県中地方振興局企画商工部長、県南地方振興局次長兼企画商工部長、会津地方振興局企画商工部長、南会津地方振興局次長兼企画商工部長、相双地方振興局次長兼企画商工部長、いわき地方振興局次長兼企画商工部長

(3) 事務局 計4名

企画調整部福島イノベーション・コースト構想推進監兼政策監兼企画推進室長、復興・総合計画課長、復興・総合計画課主幹（総合計画担当）、復興・総合計画課主幹兼副課長（地方創生担当）

2 議 事

(1) 新たな福島県総合計画（将来の姿、主要施策等）について

(2) 第2期福島県復興計画（案）について

3 発言者名、発言内容

次のとおり

司会 (山田主幹)

——開 会——

ただいまから「福島県総合計画審議会第5回総合計画・復興計画策定検討部会」を開催いたします。

司 会
企画調整部政策監

——挨拶——

はじめに、企画調整部政策監より御挨拶を申し上げます。
皆さん、こんにちは。企画調整部政策監の葉坂と申します。開催に当たりまして部長に代わり御挨拶を申し上げます。

委員の皆様には、お忙しいところ御出席をいただくとともに、リモート形式を交えた開催に御協力いただきまして感謝申し上げます。また、先月13日に発生した福島県沖地震では、最大震度6強という非常に強い揺れがあり、県内にも大きな被害をもたらしたところです。この影響により、2月18日に予定しておりました第5回の部会につきましては本日に延期させていただいたところです。予定を確保していただいた委員の皆様には御迷惑をおかけしまして大変申し訳ありませんでした。

さて、東日本大震災・原発事故から10年が経過いたしました。この間、多くの方々の御支援により本県は復興を前に進めてきましたが、被災者の生活再建、廃炉・汚染水対策、根強く残る風評など、本県の復興はいまだ途上にあります。さらに、新型コロナを始め、令和元年東日本台風等や、先月の福島県沖地震への対応など、本県の復興・再生を妨げる新たな課題も山積しておりますが、引き続き危機意識とスピード感を持って復興を着実に進めてまいりたいと考えております。

本日の会議では、新たな総合計画の第3章「みんなで創り上げるふくしまの将来の姿」について事務局案を御説明させていただくとともに、その将来につながる第4章の主要施策の政策・施策、さらには、それらに紐付く指標について御説明させていただきます。

また、第2期復興計画につきましては、これまでの委員の皆様のご意見、2月1日から3月2日にかけて実施しましたパブリックコメント、市町村からの意見を反映した計画について御説明します。なお、パブリックコメントにつきましては50件を超える意見を頂き、市町村からは、避難地域12市町村の直接の意見交換を行ったこともありまして、80件を超える意見を頂いたところです。

委員の皆様には、それぞれの専門分野はもちろん、さまざまな視点からの忌憚のない御意見を頂き、議論を深めていただけるようお願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。本日はよろしくお願いたします。

司 会

——議 事——

それでは、次第の3、議事に入ります。
これ以後につきましては川崎部会長に議事の進行をお願いしたいと存じま

川崎部会長	<p>す。部会長、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>福島大学の川崎です。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>早速ですけれども議事に入りたいと思います。今日は、お手元の次第にありますように2件あります。総合計画の素案、それから第2期復興計画の案になります。ぜひ忌憚のない御意見を頂ければと思います。</p> <p>それでは、まず(1)の「新たな福島県総合計画について」、事務局より御説明をお願いいたします。</p>
復興・総合計画課長	<p>皆様、こんにちは。復興・総合計画課長の佐藤です。本日もよろしくお願いいたします。</p> <p>説明に入ります前に、1点、御報告させていただきます。先般の2月議会におきまして新たな福島県総合計画調査検討委員会の設置が決定されたところです。今後、この審議会、部会と並行しまして、委員会においても検討が深められることとなりますので御報告申し上げます。</p> <p>それでは、新たな総合計画について話を進めてまいりたいと思います。まず、本日の資料の説明に入ります前に、前回部会の振り返りをさせていただきたいと思います。参考資料1を御覧ください。</p> <p>参考資料1ですが、事後意見としまして、まず、総合計画に関するものになりますが、今野委員から、1ページのNo.1「高齢社会を悲観的な表現とせず、今後の社会というのは当然とした上で、希望や安心を見いだす具体策を」という御意見を頂いております。こちらにつきましては、高齢者の活躍は技術や伝統・文化の継承など人材育成や生きがい寄与など重要な観点だと考えております。御意見を踏まえまして文言の整理をしてまいりたいと考えております。</p> <p>続きまして岩瀬委員から、1ページのNo.2から2ページのNo.6「震災後のできた産業研究拠点を前面に打ち出すべきである」「今後の産業振興にはデジタル化が不可欠である」「ALPS処理水の書きぶり」「高齢層を活かす視点」「情報セキュリティ教育が重要」「デジタル化人材のキャリア教育」「産業視点での人の流れを作る施策」という御意見を頂いております。いずれも重要な視点ですので、今後の記載の中で文言を整理させていただければと考えております。</p> <p>審議会当日の意見につきましては3ページ以降に記載しておりますので御確認いただきたいと思います。</p> <p>続きまして、資料1を御覧ください。新たな総合計画について素案の形で冊子版のイメージに落とし込んだものです。なお、こちらはあくまでイメージであり、最終的なデザインや色合いは、別途、専門の業者に発注して進めていくこととなりますので御承知おき願います。冊子版のイメージは前回の部会でも示させていただきましたが、部会以降に委員の皆さんの御意見や各市町村から頂いた意見などを反映したものとなります。変更箇所は主に赤字にしています。</p> <p>主な変更箇所を中心に御説明いたします。18ページをお開きください。こちらにありますとおり、本県では、令和3年2月の県議会において知事から「福島県2050年カーボンニュートラル」を宣言したところであり、第2章「福島県を取り巻く現状と課題」において地球温暖化対策の推進について記載したとこ</p>

ろです。

続きまして 22 ページです。第3章「みんなで創り上げるふくしまの将来の姿」におけるSDGsの視点の記載となります。将来の姿につきましては、県民の皆さんの意見に加えて、「誰一人取り残さない多様性と包摂性ある持続可能な社会の実現」というSDGsの理念を踏まえて描くこととしております。このことから、SDGsについては国や地方自治体、大企業だけが取り組めばいいものではなく、「一人一人の小さな取組でもSDGsの達成に貢献できる」「まず、できることからやってみる」という意識が重要であることを記載しております。

続きまして 23 ページです。こちらは、前回の部会でもお示ししておりますが、「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながら、シンカ（深化、進化、新化）する豊かな社会」を「ふくしまの将来の姿」としました。

続きまして 24 ページを御覧ください。将来の姿につきましては、県民の皆さんが具体的にイメージできるように示すことが必要であるということで、前回の部会では、「ひと」「暮らし」「しごと」各分野の具体の記載は空欄とさせていただいて委員の皆様にご議論いただいたところです。

参考資料1の3ページ以降に書いてありますが、「高齢化を正面から受け止め、高齢者であっても社会や職場から必要とされる環境づくりの視点に立った計画」、あるいは「ひと・暮らし・しごと分野を串刺しにして考える観点が大切である」ということ、あるいは「精神論ではなく具体的なイメージを」など多くの御意見を頂いております。

頂いた御意見を踏まえまして、改めて事務局側で検討を進めました。未曾有の複合災害からの復興や急激な人口減少など、他の地域よりも複雑な本県の課題はSDGsが解決を目指す課題と共通しております。このことから、本県がどのような姿を目指すのか、SDGsの視点で描くことで具体的なイメージを持っていただけるのではないかと考えたところです。こちらにつきましては、本日、委員の皆様にご議論の中心にさせていただければと考えております。

31 ページを御覧ください。第4章「政策分野別の主要施策」について御説明します。こちらでも前回の部会でご説明しておりますが、大事にしたいこととして、「誇り」「連携・共創」「挑戦」「ご縁」「信頼」の5つを掲げております。

続きまして、33 ページを御覧ください。「ひと」分野では5つの政策を掲げております。こちらは後ほど資料2でご説明します。

併せて34 ページを御覧ください。第4章の構成について御説明します。政策に係る現状や課題、方向性を記載しまして、指標を載せることを想定しております。そして、35 ページを御覧いただきますと、政策に紐づく施策や主な取組を記載することを想定しております。具体的な取組については、現在、県庁内で精査中であり、次の部会ではお示ししたいと考えております。

続きまして 55 ページです。第5章「地域別の主要施策」についてですが、こちらは前回の部会でもお示ししたものです。今回、特に市町村から頂いた意見を中心に赤字で修正しております。今回は説明を省略させていただきます。

続きまして103ページを御覧ください。第6章「計画の推進のために」について御説明します。こちらは今回初めてお示しするものです。計画の進行管理をPDCAサイクルで実施していくことや戦略的な施策を展開するために8つの重点プロジェクトを設定することを記載しております。

資料1は以上です。

続きまして資料2をお開きください。政策分野別の主要施策の骨子案になりますが、こちらは第4章「政策分野別の主要施策」に記載する主要施策の骨子についてまとめたものです。「ひと」「暮らし」「しごと」ごとに政策を紐付け、その下に、施策、取組を記載する想定です。主要施策については現在も庁内で精査を続けておりますが、骨格が固まってまいりましたので簡単に御説明します。

1ページ、「ひと」分野ですが、「全国に誇れる健康長寿県へ」、「結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり」、「『福島ならではの』教育の充実」、「誰もがいきいきと暮らせる県づくり」、「ふくしまへの新しい人の流れづくり」の5つの政策を紐付ける想定としております。

続きまして「暮らし」分野ですが、「震災・原発事故からの復興・再生」、「災害に強く治安が確保されている安全・安心な県づくり」、「安心の医療、介護・福祉提供体制の整備」、「環境と調和・共生する県づくり」、「過疎・中山間地域の持続的な発展」、「親しみ・楽しみ・慈しみのある県づくり」の6つの政策を想定しております。

次のページ、「しごと」分野ですが、「産業の持続的発展と福島イノベーション構想の推進」、「もうかる農林水産業の実現」、「再生可能エネルギー先駆けの地の実現」、「魅力を最大限生かした観光・交流の促進」、「ふくしまの産業を支える人材の確保・育成」、「地域を結ぶ社会基盤の整備促進」の6つの政策です。

それぞれの政策ごとに、その達成が測れる指標を、現状のものですが記載しております。例えば、「全国に誇れる健康長寿県へ」の政策であれば、適正体重を維持している方の割合や、メタボリックシンドロームの該当者の割合などです。

総合計画については以上です。ありがとうございました。

ありがとうございました。総合計画もようやく全貌が現れてきた感じですが、今、佐藤課長から概要についてお話いただきました。皆さんには事務局から事前に資料が配付されているので、既に全体についてお目通しいただいているものと思います。今日、会場で参加しているのは私を含めて3人で、あとはリモートで5人ということですが、リモートの参加の方は御意見や御質問があるときは「手を挙げる機能」があると思いますので、それを活用されて御意見いただければと思います。よろしく願いいたします。

今の事務局からの説明の中で、特に第3章「ふくしまの将来の姿」については、特に今回は前回から変わってSDGsと紐付けが行われていて、特に24ページに「ふくしまの将来の姿」が書いてあり、ここに関する御意見を中心にとという話でしたが、ほかにお気づきの点があれば全体的に御意見や御質問いただ

川崎部会長

復興・総合計画課長	<p>ければと思います。ちなみに、30 ページに基本目標（スローガン）「○○○○」とありますが、これは次回ぐらいにはできるという感じですか。</p> <p>ある意味、ここがひとつの集大成という形になりますので、最後の頃になるうかと思っております。</p>
川崎部会長 岩瀬委員	<p>議論をした上でと。わかりました。岩瀬委員、お願いいたします。</p> <p>いろいろまとめていただいてありがとうございます。</p> <p>確認と、少し戸惑った部分で、23 ページの3「みんなで創り上げるふくしまの将来の姿」で、SDGs に対応した「ふくしまの将来の姿」を事務局がまとめていますが、28 ページには、「避難 12 市町村の目指す将来の姿」とあります。福島県全県として目指す将来の姿が 23 ページで書かれていて、特に避難地域 12 市町村は特別な環境なので、そこに関しては「将来像に関する有識者検討会提言」から抜粋してここに記載されているという構図かとは思いますが、記載の「将来像」が非常に違うんです。ここはどうなんですかね。参考になるんですか。読んでいて戸惑ってしまった感じです。</p>
川崎部会長	<p>第3章の3と4のレベル差、関係性について補足的に御説明をお願いいたします。</p>
復興・総合計画課長	<p>御指摘ありがとうございます。28 ページの4は先般開かれた 12 市町村将来像の有識者会議で出された提言です。先行して、こういった提言がなされていることもやはり踏まえていくべきということで、このレベル感を、参考とするのか、あるいは入れ込むのかというところは未調整のところがあります。ただ、この総合計画、あるいは復興計画もそうですが、国の福島特措法などとの整合や、これから予算の関係などを整理していくときに無視できないということは間違いないので、きちっと押さえるべきところは押さえるという意味でここに書かせていただきました。参考とするか、その辺のレベル感は調整をさせていただければと思います。</p>
川崎部会長	<p>印象としても、策定主体が有識者検討委員会で、上位計画や関連計画といった位置付けだと思いますので、岩瀬委員御指摘のように、総合計画そのものとレベルが少し違うところがあるので、検討していただければと思います。</p>
復興・総合計画課長	<p>整理させていただきます。ありがとうございます。</p>
川崎部会長	<p>ほかにいかがでしょうか。横田委員、印象でも感想でも何かあればお願いします。</p>
横田委員	<p>24 ページ「SDGs の 17 の目標」と「ふくしまの将来の姿」がリンクしていない印象が若干あります。例えば、「飢餓をゼロに」というところは、「産地の生産力が向上し、生活に不可欠な食料を安定的に供給している」とありますが、福島は飢餓ではないので、ここでいいのかと少し疑問が湧いてきたり、ジェンダーに触れるかどうかというところも含めてですが、「ジェンダー平等を実現しよう」というところはSDGs の目標ですが、「ふくしまの将来の姿」にはジェンダーのひと言もないので、無理にリンクさせるべきなのか、リンクさせなくてもいいのか。</p>
川崎部会長	<p>お願いします。</p>

復興・総合計画課長	<p>ありがとうございます。ここは非常に事務局側でも悩んだところだと思います。というのは、なかなか総合計画はわかりにくいというのが昨年度からの課題として残っていて、一方で、SDGsは大事だというのがあります。同じ1つの取組を総合計画でも達成し、実はSDGsでも達成していると思って整理したわけですが、きちんと結びついているのかという御意見を頂きたいと思っていました。さらにこの下に具体的な取組がぶら下がるので、その中ではリンクしています。県民の皆さんに、我々が取り組んでいることは必ずSDGsや社会的課題、国際的な課題と結びつきがあるということを説明することによって、県庁だけのものではないものにしたという工夫として今回このようにさせていただいたので、できれば、この方向で是正していきたくと思っています。なお、文言は、今おっしゃるとおりで、足りないもの、あるいは足りすぎているもの、結びつかないものなどもあるかと思うので、ぜひ御意見を頂きたいと思っています。</p>
横田委員	<p>1の「貧困をなくそう」というところでも、「貧困」という言葉でいえば、「子ども食堂」という言葉が出てきたりとか、具体的に書くのがいいとは思わないんですね。姿なので具体的にしすぎないほうがいいと思うのですが、ただ、「SDGsの目標」と「ふくしまの将来の姿」を重ね合わせるのであれば、SDGsに寄せていくしかないかと思うので、書き方をだいぶ工夫しなければいけないと思います。</p>
復興・総合計画課長 川崎部会長	<p>引き続き検討させていただきます。 確かに、私も同感で、「ジェンダー」はともかく、「貧困」や「飢餓」は福島で大きな問題になっているかという、必ずしもそうではないので、これを掲げて「ふくしまの将来の姿」というのは、先ほどの12市町村の検討会もそうですが、レベルがちょっとどうなのかというのがあります。そのギャップを県民が見たときにどう捉えるかという視点をまさに横田委員に御意見いただいたと思います。どうもありがとうございました。西崎委員、お願いいたします。</p>
西崎委員	<p>SDGsのところですが、まだまだ町民レベル、一人一人の県民レベルまではなかなか浸透していないと感じているんですが、最初に、22ページ、SDGsと総合計画について読んだときに、SDGsを達成することが目的のような感覚を受けてしまいます。24ページ以降の「SDGsの17の目標」と「ふくしまの将来の姿」というところも、SDGsを軸にして「ふくしまの将来の姿」が書かれていて、その関係性が逆なような気がして、『「ふくしまの目指すべき姿」に対してSDGsのこれが当てはまるよね」という、県民レベルでこの総合計画を見ながら何かやろうとしたときに、「自分がやることっていうのはSDGsのこれに当てはまるよね」といった見方ができるのかなと思います。SDGsを福島のこれからの絡めた立ち位置、関係性がなんとなく違和感があるんですけども、いかがでしょうか。</p>
川崎部会長	<p>なるほどと思いました。SDGsがあって「ふくしまの将来の姿」、ある種の福島版のSDGsという形で「ふくしまの将来の姿」にされているわけですけども、むしろ、「ふくしまの将来の姿」というものがあって、もちろん「SD</p>

復興・総合計画課長	<p>G sの17の目標」はここでクリアしているんだよ、という示し方、関係性のほうが福島県の総合計画としてはいいのではないかという御意見ですね。すごくいい意見だと思いました。</p> <p>ありがとうございます。おそらくそうなのだろうと思っていますが、実は我々、これはかなり実験的な取組でもあると思っています。社会の課題を23ページの「ひと」「しごと」「暮らし」にしましたけれども、この下の3つの輪にしている図のところでも、やはり何かしらずSDG sの項目に引っかかっている。要は社会における課題をどのように捉え、それをどのような姿に持っていきたいかというイメージで、これは実験的に整理したということです。「ふくしまの将来の姿」があつて、それがこのように貢献するのだというのは確かにおっしゃるとおりですが、今、SDG sというものが大きすぎるのもあると思うのですが、それを課題と捉えたときに、それをきちんと福島の総合計画において解決できるということを表したいなということで整理しました。また、つながりの工夫というものは必要かと思っています。要は、今の社会がどういう課題を抱えているのかを改めて整理するときに、ひとつの基準、わかりやすいものとしてこのSDG sを活用させてもらうという形をとろうかと思っています。ただ、検討はさせていただきたいと思います。</p>
川崎部会長 横田委員	<p>横田委員。</p> <p>そうすると、「ふくしまの将来の姿」を左側に、右側に「SDG sの17の目標」があるとして、例えば、「誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを受受できる環境が整っている」というところには、おそらく1と4が当てはまると思うんですね。4の「質の高い教育をみんなに」は、おそらく「誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを受受できる環境が整っている」になるので、「ふくしまの将来の姿」が、「これは1ではなくて、SDG sの中では2も3も合いますよ」となるので、SDG sが左側にあると「合っていないんじゃない？」と思うんですが、ふくしまの将来の姿を左側にするとSDG sに合っている、という方がすんなりいくのかもしれないと思いました。</p>
復興・総合計画課長	<p>ありがとうございます。おそらく、それは重点事業などこれまで取り組んでいることを当てはめると並ぶと思います。それをちょっと実験的に、「では、共有できるものとは何なのか」といったん整理しましたが、これがわかりにくいかと思いますので、今、頂いた御意見を踏まえて、こう見せたらいいかというものを研究して、またよりよいものにしたいと思っております。ありがとうございました。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございました。今、お三方からお話がありましたが、思いはおそらく一緒、哲学は一緒だと思いますので、見せ方を御検討いただければと思います。</p>
今野委員	<p>今野委員、何かお気づきの点はありますか。</p> <p>社会的にすべてSDG sによりかかれば、共感を得たり、ひとつの免罪符ではないですが、それが全部通ってしまう。「SDG s」という言葉を使うと、社会そのものがその言葉を付けることによって何でも理解されてしまう、それが</p>

ひとつの世論の中での使い方です。

でも、例えばエネルギー政策を思い出していただきたいのですが、あの震災・原発事故のときに何があったかという、あれだけ消費をしていた東京の中では、停電というものを経験しながらそこで生活をしてきたこともあったわけです。そう考えた場合に、現状の今の生活を維持しようとするれば、どこかに負荷がかかると思うんです。であるならば、今後の社会を見据えた中で、エネルギー政策も含めて、例えば節電といった項目もあったわけです。今のエネルギーをそのまま維持すると、結果、それは自然エネルギー、再生エネルギーとなってしまうのですが、いずれ太陽光パネルも劣化して廃棄物になる時代が来るわけです。となると、当然その処分により環境に対する負荷はかかってくるわけですね。製造するにもそれなりの資源を使うわけですから、SDGsという言葉の反面、それだけの負荷がどこかにかかっていくし、将来的にかかってしまう。そうであるならば、我々の生活のあり方そのものも、もう少し理念そのものを理解した上で、多少不便であっても自分らの便利さを見いだすような方向性を導き出さないと、今の水準だけを追い求めて、それに代わるものということを次から次と取り組んでいけば、だんだんと自然に対する環境に負荷もかかっていくし、原発事故でみんな停電でも我慢してきた苦労というものも思い出されなくなってしまうのではないかと考えていました。

川崎部会長

今回、この総合計画に「3つのシンカ」ということを言っているのですが、その「シンカ」の中身のお話かなという印象を受けました。23ページにある「将来の姿」全体に関わって『ひと』『暮らし』『しごと』が調和しながらシンカ（深化、進化、新化）する豊かな社会」とありますが、そのシンカの方向性や中身の全体的な理念をおっしゃっているのかなという印象を受けました。そういった御意見も踏まえて将来の姿についても全体的に再検討いただければと思います。

松澤委員、お願いします。

松澤委員

私、何回か分科会も含めてSDGsの話をさせていただきました。このように具体的に出てきたことでわかりやすくなったと思ったのですが、その反面、私たち福島県の目指す目標は、資料の中の主要施策なのか、SDGsのキーワードなのか、「ふくしまの将来の姿」なのか、どこに着目したらいいのか分からないので、その辺の整理はぜひしていただきたいです。

あと、18ページの地球温暖化対策のところ「カーボンニュートラル」が出てきますが、これは知事から宣言があったからということでしょうか。今まであまりカーボンニュートラルは出てきてなかったのに、ここに突然出てきているのは少し違和感がありました。なんでだろうと思ったのですが、その辺はいかがでしょうか。

川崎部会長

1点目、どこを見ていいかわからないというのは、総合計画素案の2ページ、3ページあたりを見ていただくと骨格が整理されています。将来の姿が「ひと」「暮らし」「しごと」で、それを支える県づくりの理念と基本目標があります。こういった形に整理されていますが、ページ数も多いこともあってやや煩雑か

復興・総合計画課長	<p>もしれないですね。見せ方の問題だと思うので、また最終的な段階でお示しいただけるとと思います。</p> <p>2点目のカーボンニュートラルの件についてはいかがでしょうか。事務局からお願いします。</p> <p>ありがとうございます。カーボンニュートラル自体は、廃プラ問題なども含めて、社会的な負荷が日々大きくなっているのもともと課題としていたと考えております。そういう折に、先般、県として「カーボンニュートラル宣言」をさせていただいたので、もともとあったものを課題として取り出してここに掲げたということです。</p> <p>この課題は、新型コロナウイルス感染症もそうですが、例えば県庁の中だけでいうと、生活環境部だけの問題、あるいは保健福祉部だけの問題になりかねないところもありまして、そうではなくて、これは横串を刺して各部局が取り組んでいく、あるいは、県庁だけではなくて、市町村、県民の皆さんも含めて一体として取り組んでいかなければならないことだと思っていますので、そういった点で、横串を刺す、単一部局で解決できる課題ではないということで、きちんと位置づけたいと思っていますところでは。</p>
川崎部会長 松澤委員	<p>松澤委員、いかがでしょうか。</p> <p>カーボンニュートラルは結構タイムリーな話題で、カーボンニュートラルのことを扱うのであればぜひ入れてもらいたいなと思うことは、福島の場合、森林面積が広く、全国的にもカーボンニュートラルを進めていく中で、すごく重要なポジションになってくると思います。特に、自然環境だけではなくて地場の産業との結びつきもあります。その反面、都市圏の企業や外国の資本に福島が良くも悪くも使われてしまうという危機感もあるので、この先、福島にとってのカーボンニュートラルのポジションを明確に記載していただきたいと思います。</p>
川崎部会長	<p>事務局の説明も冒頭にありましたが、そういうことで今回新たに入れたということだと思っていますので、十分にその重要性は認識されていると思います。ありがとうございます。</p>
岩崎委員	<p>岩崎委員、お願いいたします。</p> <p>SDGsのことで私もお話しさせていただければと思います。SDGsは17項目にわたっていて、漏れがない良いワードというか、非常に総花的な基準なので、これを言うっておけば誰も反対しないという性格のものだと思うんです。めりはりがもう少し盛り込めるといいと思いました。</p> <p>例えば、22 ページに、「あなたもやってみよう」というような呼びかけがありますが、福島だからこそできているSDGsの取組を再評価するようなことがありうるのではないかと考えています。例えば、大都市圏と違ってコミュニティがまだ残っているんですね。このあいだの2月の地震のときも、あるところでは消防団が非常に機能していて、一軒一軒、消防団の若者たちが家を回ってくれてすごく安心だったという声が聞けたりしました。福島だからこそコミュニティがしっかりしていて、なんとかみんなで頑張っつないでいるという</p>

ことがあるんじゃないかと思うんですね。あるいは農業もしっかり残っていて、地産地消や小さな農業もすごく頑張っていて、高齢者の方も含めみんなが頑張っていて取り組んでいるところを見ると、「今まさに皆さんが取り組んでいること自体がSDGsなんですよ」といったところがあるのではないかと思うので、もっと、福島だからこそ実現できているSDGsの価値をしっかり打ち出し、それを将来的にさらにつないでいくには、どんな取組、どんな支援が必要かというところに踏み込んでいったほうが、県民の暮らしに身近な取り上げ方になっていくという気がします。それから、「自分にできることを考える」のところで、「車から自転車等へ移動手段を変えてみる」というのももちろんそうなんですけど、例えばものすごく高齢化が進んでいる現状の中だと、「足が不自由な高齢者はどうするのか」という話になるわけですね。なかなか高齢でも運転免許証を返納できずに、車の移動手段がなかったら買い物さえも行けないという状況を目の当たりにしているわけで、そこをどうするのかということを考えてたり、支援のあり方をどうするのかということもSDGsが問いかけているのではないかと思うので、下の「身近なSDGsの取組例」を「福島発のSDGsのあり方」のように書いていただけるといいかと思いました。

川崎部会長

ありがとうございました。岩崎委員がおっしゃったのは、あえてSDGsと言わなくても、とうに福島県では達成していることもあるし、そういう福島の現状を評価しながら、さらに磨きかけていくような形での「福島のSDGs」がありうるのではないかということだと思いました。特に岩崎委員は、22ページの「身近なSDGsの取組例」のところを中心におっしゃいましたが、24ページ以降の「ふくしまの将来の姿」に関してもそのような観点でもう少し検討したほうがいいのではないかというような御意見ですか。

岩崎委員

そうですね。やや総花的な感じがしました。先ほどから出ている「福島らしさ」が入っているといいのではないかと思いました。

復興・総合計画課長

ありがとうございます。SDGsは総花的という話ですが、大事なのは寛容ということと調和することだと思うんです。今、岩崎委員御指摘のとおりで、一方を立てれば一方がということではなく、寛容と調和で満たされていく社会なんだろうと思っております。今、御指摘のことをすべて表すというのはほぼ無理に近いところもありますが、できるだけ福島らしさ、例えば、コラムや抜き出しなどで工夫して、そういうものが見えるようにできないか検討してみたいと思います。そうすることで、総花的に見えるものも、実はこういうところで福島ではエッジが効いているという話もあると思います。

例えば、いわきで、「自分はSDGsそのものだ」と頑張っておられる磐城高箸さんなどがおられますが、彼が取り組んでいることは、今まで木材を製材所に持っていくと二束三文にもならないものを、高級割り箸に着目して、高級割り箸をつくることによって森も守られ、地域も守られ、学校ひとつに工場をつくったことによって、廃校になった学校でコミュニティも守られたということだと思います。そういったことをここに書き込もうかと思うとなかなか書き込めないところもありますので、そういったものはうまくコラムのようなもので

	<p>も持ちながらということかと思っております。</p> <p>ここは先ほど「実験的に」と申し上げたのですが、非常に悩んでいます。どうしたらわかっただけか非常に悩みながらつくっておりますので、福島が見えないのではないかというのは、確かにそういうところもなくはないので、どういう言葉を使ったら見えるようになるのか、いろいろな御意見を頂いて、非常に研究させていただきたいと思っております。ありがとうございます。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございました。</p>
前澤委員	<p>前澤委員、何かございますか。</p> <p>SDGsにこだわりすぎて、この文言にあてはめようとする、今まで皆さんから出た意見が散らばってしまう気がする、できれば、この目標に対する福島としての目標の表現に置き換えたかどうかと思います。それを参考にして、1「貧困をなくそう」であれば、福島では「みんなが安心して暮らそう」のように言葉を少し換えて、2「飢餓をゼロに」も、福島ならではの、「地産地消で健康的な食育を進める」のように文言を換えて挙げていくと福島らしさがいっぱい出てくる気がしました。SDGsの目標はおそらく網羅するために満遍なく調和させるために17あると思うんですが、こだわりすぎると視点がこっちに行ってしまう、もっと福島らしさを出したいときに塞いでしまうと感じました。福島らしさをまた違った目標の表現に変える、SDGsにならって福島らしく表現の見出しを変えてはどうかと思います。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございました。おそらく事務局もその辺を考えて言葉を選んで「ふくしまの将来の姿」が書いてあるように見えるのですが、左右の関係性などで見えにくいところがあるかもしれません。ただ、委員の意見として、福島のよさや福島らしさ、あるいは、もっと福島らしい表現があるのではないかという御意見でしたので、そういった面でもう一度精査していただければと思います。どうもありがとうございます。</p> <p>ひととおり御意見を頂きましたが、この「ふくしまの将来の姿」ではなくても、全体的でも構いませんので、御意見、御質問がございましたらお願いいたします。</p>
横田委員	<p>横田委員、お願いいたします。</p> <p>資料2は、指標が想定されているんですが、ここに向かっていくというプラスの指標がいいなと思っております。「自殺者数」は要らないと思うんです。「心の相談ダイヤルに相談した件数」ではなくて、「相談して解決した件数」があれば指標になっていくと思うので、これを取り組むことによってこういうふうによくなったという数字をここに載せていただきたいと思うんですね。そういう観点で見ると、それぞれの目標の指標のつくり方は統一できるかと思いませんので、そういう観点でつくっていただければという意見です。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございます。指標についてはこれからまだ庁内でもまれるということだったので、今の時点で言ったほうが良いと思うのですが、例えば、この資料2の3ページ、政策1で「震災・原発事故からの復興・再生」とあって、施策が①から⑧まであって、指標は「居住人口」、「営農が可能な面積のうち営</p>

	<p>農再開した面積の割合」などがあるんですが、もちろん行政計画として総合計画をつくるので行政としてはいいんですが、1回目の総合計画審議会で西崎委員がおっしゃった県民の目から見た指標ももう少しあるのではないかなと思うんですね。例えば、指標として「居住人口」とありますが、行政側はこれがすごく大事な指標なんですけれども、被災者や県民から見ると、どれくらい生活が再建できているかということのほうが大事なので、一人一人の生活という点を、県民が見て自分の生活ということがわかる、実感できるような指標の選定もあるといいのではないかなと思いました。</p>
<p>西崎委員 川崎部会長</p>	<p>西崎委員、こういう指標があればいいのではないかなとか、何か御意見はありますか。</p> <p>そうですね。今のところありません。</p> <p>では、何か思いついたことがあれば、後日でもかまいませんので、事務局のほうにお伝えいただければと思います。</p>
<p>岩崎委員</p>	<p>岩崎委員、お願いします。</p> <p>指標について確認したいことがあるんですが、この総合計画にぶら下がる、各部門計画の作成が今それぞれ進められている段階かと思うんですね。そこでも各部の審議会で指標が検討されているところだと思うんですが、各部門計画で出されていた指標と、ここで議論する我々の意見のすり合わせが、これから先どういう形で行われるのか、確認させてください。</p>
<p>川崎部会長 事務局</p>	<p>今の点、いかがでしょうか。</p> <p>3ページを参考までにお開きください。右下の計画の構造の図ですが、岩崎委員御指摘のとおり、総合計画の下にはこのような計画がたくさんぶら下がっています。分野別の計画ですが、各部局とも当然連携しながら本日の資料まで行き着いています。この新しい総合計画の策定に向けて指標を一つ一つ精査して、どういった指標だと効果的なのかということ、今、部局と詰めている段階ですので、総合計画がまずは先行して、そのあとに分野別の計画が追いつく形です。ただ、次期復興計画などは、3月中に策定しますので指標の部分は保留にしています。</p>
<p>岩崎委員 川崎部会長 横田委員</p>	<p>わかりました。ありがとうございます。</p> <p>横田委員。</p> <p>指標のつくり方なんですが、プラスカウントとマイナスカウントがあると思うんですが、各部でばらばらなんですね。例えば、自殺者数だとプラスになっているんですが、本来はマイナスカウントだと思うんです。去年は20だったけれどもマイナス10を目指すといったときに積み上げ式になっていると、見た目では10人死んでもいいと見えてしまう。ここが見直すタイミングだと思うので、マイナスのときはマイナスカウントする目標、去年よりもマイナス何パーセント、プラスだったらプラス何パーセントと統一していただけると、指標のところで県として統一した数字ができると思うので、ぜひとも今回整理していただきたいと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>現行の新生プランですが、170を超える指標がありまして、その下にぶら下</p>

	<p>がっている分野別の計画はもっとたくさん指標がぶら下がっています。今回まさに御指摘のとおり見直しのタイミングと捉えて、しっかり効果的な指標になるように、統一できるものは統一し、どうしても定量的な表し方が難しいものは定性的な言葉での表現になるものもあるかもしれませんし、県政世論調査のようなアンケートに依存するような指標も当然加味しながら検討を深めていきたいと思います。ありがとうございます。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございました。</p>
前澤委員	<p>前澤委員、お願いいたします。</p>
	<p>先ほど自殺者数のことをおっしゃっていたんですが、未遂の方もだいぶいらっしやると思うんです。自殺の該当前の段階の数字が指標にあったら、自殺者数から未遂になって、未遂もしなくなると改善が見えてくるかと思います。死んでしまわないとカウントされないの、心のケアで頑張っている方たちの指標としては、未遂の方がどんどん減って行って自殺する方が減っていくの、いいような気がするの、亡くなった方よりも死にたいと思う人がどれだけ減っていくかということに視点を置いてもらえたらと思います。</p>
川崎部会長	<p>大事なことだと思います。本当にそのとおりですね。それがどのような形で盛り込めるのかは検討していただきたいと思います。ありがとうございます。</p>
岩瀬委員	<p>岩瀬委員、お願いいたします。</p>
	<p>先ほどの議論で、「ふくしまの将来の姿」は本来、福島としてあるべきことで、それがSDGsにどう対応するかという書きぶりが問題だということでした。「ふくしまの将来の姿」がSDGsの右側に結構細かく書いてありますが、これも今後整理されるときに、カテゴリーとして「ひと」「暮らし」「しごと」の3つの分野で分類して書かれることが必要かと思いました。いろいろな政策も「ひと」「暮らし」「しごと」と書かれていますので、わかりやすさからも、カテゴリー的にその3つを前提にまとめていただければと思います。</p> <p>もう1点、以前の審議会で岩崎先生が御指摘されたことで、私もそうだったのですが、福島県は今まで原発・震災、台風を含めてさまざまな災害を受けてきて、それをエネルギーに我々は復興に向かって動いているのだということ、特に、コミュニティの力を含めて、他にはない福島ならではのレジリエンスや復元力のようなものを持っているので、それを今後の体制などにつなげていく姿勢が重要ではないかという御指摘がありました。それが今回の中では、29 ページに記載されているんでしょうか。「将来の姿の実現に向けた県づくりの理念」の真ん中ぐらいに、「『福島ならではの』の県づくりの理念として」というところがあり、そこに「震災・原発事故からの復興・再生や」云々と書かれています。ただ、この書きぶりには復元力やレジリエンス、コミュニティの力といったニュアンスがあまり感じられないので、反映いただくほうがいいかと思いました。</p>
川崎部会長	<p>岩瀬委員、1点目は、24 ページ以降の「ふくしまの将来の姿」というのが17のゴールに基づいてそれぞれ書かれているけれども、これを「ひと」「暮らし」「しごと」に分けて整理したらどうかという御意見ということによろしいです</p>

岩瀬委員	<p>か。</p> <p>今までの委員の御指摘では、「ふくしまの将来の姿」が左にあるべきで、SDGsにどう対応するかということだと思っんですね。「ふくしまの将来の姿」として色々書いてありますが、それを、わかりやすさのためには3つの分類を意識して書かれたほうがいいのかと思います。</p>
川崎部会長	<p>23 ページの3つの丸の構造をそのまま生かしつつ、24 ページ以降を整理するといいいのではないかとこと思っんですね。</p>
岩瀬委員	<p>そうかと感じました。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございます。それは整理の仕方ですので御検討いただければと思っんです。</p>
復興・総合計画課長	<p>もうひとつはしなやかさですね。レジリエンスは福島によさなのではないかということ、その点について何か御意見は事務局でありますか。</p> <p>ありがとうございます。非常に重要な視点だと思っっております。まさに御指摘のところに、強靱さということ反映させてはいるんですが、もう一方、先ほどお話があったこれまでの震災・原子力災害がイメージできるように整理させていただきたいと思っっております。また、ここは各部の取組、県としての取組に非常に重要な思想だと思っしますので、重要視してまいりたいと思っっております。ありがとうございます。</p>
川崎部会長	<p>今の岩瀬委員の 23 ページの3つの丸ごとに整理していくとするならば、レジリエンスは、岩崎委員も岩瀬委員もおっしゃった「ひと」に関わることなので、入れ込んでいいかと思っんです。</p>
復興・総合計画課長	<p>ほかにいかがでしょうか。もしなければ次に移って、あとからお気づきの点があれば、また改めて御意見、御質問を頂ければと思っんです。</p> <p>では、次の議事に移ります。次は「第2期福島県復興計画（案）について」、御説明をお願いいたします。</p> <p>総合計画についてありがとうございました。SDGsに関する御意見、本当にありがとうございます。今まで右から左へSDGsを当てはめればいいと言っっていたものを、思い切って、やはりきちんと大事にしよう、やるんだったらきちんとやろうという気持ちで事務局で取組ませていただいておりますので、ぜひ、アドバイスを頂ければと思っっています。もしうまくいけば、おそらく全国でもないような計画になるかと思っしますので、ぜひよろしくをお願いいたします。</p> <p>それでは、復興計画について御説明させていただきます。資料3「第2期福島県復興計画（案）」です。</p> <p>先ほど、政策監の葉坂から説明申し上げましたが、2月1日から3月2日にかけてパブリックコメントを実施しまして、重複する御意見はありますが、延べ55件の意見を頂いております。参考資料2がその意見と対応になっています。また、市町村につきましては、文書で意見照会をさせていただいたほか、避難地域の12市町村につきましては個別に意見交換を実施させていただいて、延べ87件の御意見を頂いたところ思っんです。さらに、今回の部会に先立ちまして、</p>

部会委員の皆様には3月4日時点の計画素案を御確認いただきまして御意見を頂いているところです。部会員の皆様にはお忙しいところ御確認いただきありがとうございます。ありがとうございました。

先ほど申し上げた参考資料2ですが、1ページから15ページがパブリックコメント、16ページから32ページが市町村、33ページから36ページが部会委員の皆様のお意見になっており、それを取りまとめて、考え方あるいは対応案を整理しています。

概要を申し上げますと、パブリックコメントにおける御意見では計画素案に対する御意見のほか、例えば介護や看護に関することやモビリティに関すること、放射線に関する不安や風評払拭の取組、除染等の土壌の取扱やその技術開発、さらには動物愛護に関するものなど、復興に向けた具体的な施策や事業の御提案はもとより、それにとどまらない御提案も頂いたところです。本計画に反映できるものについては最大限反映できるよう検討してまいりましたが、それ以外につきましても、各部局が持つ計画や事業構築において参考とさせていただき、具体化できるもの、あるいはできないものもあろうかと思いますが、多くの意見を頂きましたことに改めて感謝を申し上げたいと思います。また、市町村からの御意見につきましては、避難地域の市町村から「各市町村で復興の進み具合が異なるという視点を意識してほしい」との意見をはじめ、復興の進捗、主に計画素案における具体的な表現の修正などの意見を頂いております。

それでは、3月頭の素案から、計画案を作成するに当たって比較的大きな修正・変更を行った部分を中心に御説明させていただきます。

計画案の「第2期福島県復興計画の概要」の「第3章 復興へ向けた重点プロジェクト」をお開きいただきたいと思います。4「産業推進・なりわい再生プロジェクト」の目指す姿に「新たな産業の創出などによる国際競争力の強化に加え」という文言を追加しております。これにつきましては、参考資料2の33ページNo.1の岩瀬委員の御意見ですが、「『目指す姿』には、失われた各産業の復興の記載はあるものの、新産業創出など将来の視点での記載がない」という御意見を頂きましたので、それを反映させていただきました。

続きまして計画案の4ページをお開きください。下のほうの2階建て家屋のような図についてですが、2階の部分「福島全体の復興」という表現から、「複合災害からの福島全体の復興」という表現に修正しております。こちらは、参考資料2の33ページNo.2、岩瀬委員から頂きました「震災、津波からの復興はもう終わっているのかとも感じさせられる」との御意見を反映させています。

続きまして計画案の5ページを御覧ください。復興が途上の側面につきまして、環境省が先般行いましたアンケートの調査の結果として、大熊町、双葉町にまたがる中間貯蔵施設に搬入中の除染による除去土壌等の最終処分は中間貯蔵施設への搬入開始30年後、具体的には2045年とされておりますが、県外において最終処分をすると法律で定められていることへの認知度の低さを示すグラフについて記載しております。

続きまして計画案の8ページをお開きください。課題の⑭を「間伐等の森林

整備と、その実施に必要な放射性物質対策、森林の再生に向けた実証事業の実施、原木林における放射性物質の動向等に留意した計画的な伐採・更新、特用林産物の産地再生」に修正しております。参考資料2の35ページNo.10、岩崎委員からいただいております「放射性物質に対応した森林の再生の取組は注目度も高いので、具体的にわかりやすく書くのがよい」との御意見を反映していません。

続きまして計画案の10ページの課題①です。「コミュニティ交流員等を通じたコミュニティの再生・形成・維持」に修正しております。こちら、参考資料2の35ページNo.12、岩崎委員からの「コミュニティ交流員による支援ばかりではなく、さまざまな地域組織やNPO等によるコミュニティ再生の取組が求められる」との御意見を踏まえつつ、復興計画は県の取組を記載する実行計画であるという観点から整理させていただいたものです。

続きまして計画案10ページの課題⑤になります。「避難の長期化等に伴い個別化・複雑化している課題への対応や、ふるさととのきずなを維持するための情報提供やきめ細かな支援の実施」と修正しております。「ふるさととのきずなを維持する」ということについて追記したのですが、これは参考資料2の34ページNo.9、岩崎委員から頂いた、「避難されている方に引き続きふるさとに関わってもらうことの必要性と関わり方への支援についても言及すべきではないか」との御意見を踏まえています。なお、岩崎委員の御指摘は課題の①となっておりますが、こちらで整理させていただいております。

続きまして計画案の15ページの課題⑤になります。「鳥獣被害対策の強化による」との文言を加えております。こちらが参考資料2の21ページNo.30、市町村から頂いた「農林水産業の再生の課題の中に鳥獣被害の内容を盛り込んでほしい」との御意見を踏まえております。

続きまして計画案の17ページと19ページを御覧ください。調整中となっていた部分を記載しました。17ページにつきましては、県内の再生可能エネルギー拠点を、19ページにはイノベ構想関連の話題を挿入しました。

続きまして計画案の28ページです。デジタル変革の視点の1つ目の「○」につきまして、「デジタル技術やデータの積極的な活用は、県民本位の行政サービスの実現や企業の競争力の向上、新産業の創出にもつながる」との表現に修正しております。こちらは参考資料2の33ページNo.3、岩瀬委員からの「行政サービスに関する記載はあるものの、民間や新産業創出の記載がない」との御意見を踏まえて記載させていただいております。

続きまして計画案の29ページの(13)のタイトルについてですが、「復興にいかす地方創生の視点」と修正しております。併せてその下に、「ふくしま創生総合戦略から抜粋」との注記を入れております。こちらにつきましては、参考資料2の34ページNo.6、岩瀬委員からの「復興と地方創生の関連をわかりやすい表現に」との御意見、それから、36ページNo.16今野委員からの「震災・原発事故からの復興と社会構造の変化を切り分けることは困難だが、そこを意識した『対応の方向性』を示してはどうか」との意見を踏まえております。こちら

につきましては、議会からもこの関連性を整理したほうがいいという話がありましたので、このタイトルに改めさせていただいております。

それから、計画案の 42 ページの 2 (2)、農林水産業の復興・再生の取組について、再開の支援に係る取組をはじめに記載するように変更しました。こちらは参考資料 2 の 5 ページの⑤、No.20 のパブリックコメント「まずは農業者、森林・林業、水産業への再開の支援を重視するべき」との御意見を踏まえたもので、はじめに記載しました。

続きまして計画案の 44 ページ、オ②の取組についてです。「風力発電の大量導入の支援」を「地域と共存する風力発電の導入拡大の支援」に修正しております。こちらは、参考資料 2 の 28 ページ、No.67 の市町村からの「風力発電は住民に理解され、生活・自然環境と調和が図られているものであることが前提になる」との御意見を踏まえています。

続きまして計画案の 39 ページを御覧ください。取組の方向性 3 「魅力あふれる地域の創造」の最後の行になりますが、「加えて、環境先進地域を目指し、脱炭素まちづくりを推進します。」の文言を追加しております。併せて 47 ページにも「環境先進地域を目指したまちづくり」の項目と「脱炭素まちづくり推進」の取組を追加しております。こちらは先ほどのカーボンニュートラル宣言との関係で、復興においても踏まえていく考えから追記しました。

続きまして 51 ページと、参考資料 2 の 34 ページ No.8 を御覧ください。「重点プロジェクト」におきまして「人材育成が各プロジェクトに分散して記載されているためわかりにくい」との御意見を頂いております。こちらを踏まえて、計画案 51 ページの「人・きずなづくりプロジェクト」の「3 産業復興を担う人づくり」に集約しました。

そのほか必要な修正を加えさせていただいておりますが、説明は以上とさせていただきます。ありがとうございました。

川崎部会長

ありがとうございました。政策監からも御説明が挨拶の中でありましたが、部会が 1 回、2 月の地震のために延期になってしまったわけですが、この間、復興計画がいよいよ大詰めなので、事務局から我々に対しては個別にウェブを使って、2 回にわたるパブコメの状況やそれに伴う変更などを御説明いただきました。また、パブリックコメントも 55 件ということですが、これは過去の復興計画と比べて多いのですか。

事務局

前回、3 次計画のときは 40 数件でしたので、少し多いです。

川崎部会長

県民も非常に関心を持っている状況で、一つ一つ丁寧に反映していただいたという御説明だったと思います。

順調にいけば、来週に決定するスケジュールになっていて、本当に大詰めの段階ですが、今、御説明があったことに関して、あるいはその他に関して、御質問や御意見があれば頂ければと思います。いかがでしょうか。

先ほど事務局から、指標は、総合計画に先立ってこちらに掲載するということでしたが、ここに載っている、例えば 67 ページで「ホープツーリズム参加者数」とありますが、これはこの指標でいきたいという案でいいんですか。

事務局	<p>「ホープツーリズム」の指標については、先行して策定している地方創生の戦略に指標として入れているものを参考までに載せております。新しい総合計画の中で指標のあり方を見直して、改めて反映させるものは反映させていきたいと考えており、現時点においては参考指標としてホープツーリズムを入れています。</p>
川崎部会長	<p>ありがとうございます。 ほかに何かございますか。岩崎委員、よろしいですか。</p>
岩崎委員	<p>私は私なりに実態を見て意見を書かせていただいて、対応していただいておりますので、そうかなと理解しています。</p>
川崎部会長	<p>事務局で対応していただいたものを御説明いただきました。岩瀬委員からは多くの意見を頂きましたが、このような対応でよろしいですか。</p>
岩瀬委員	<p>適切に対応いただいて感謝しています。1点、4ページの下の図、「復興の前提となる長期的な取組」というところに、土台が1階にあって2階があるという図がありますね。私の個人的な感覚かもしれませんが、この図が原子炉建屋を想像するように最初思ってしまったんですね。右側に写真があります。ここで伝えたいことは、最初のフェーズとして廃炉に向けた取組についてやらないといけない、次にそれに伴う諸課題を解決しなければいけない、それが複合災害からの福島全体の復興につながるのだという流れをメッセージとして伝えたいのであれば、あえてここで建物をイメージするようなこの図が適切なのかと少し感じます。ただ、ほかの方がそれは建屋に捉えず、単にステージアップのイメージで捉えるというのであればよろしいと思うので、皆様のお感じにお任せしたいと思います。</p>
川崎部会長	<p>建屋に見える人と見えない人がいますが、1階、2階というのは家をイメージしているわけですね。</p>
岩瀬委員	<p>少し気になったので、それだけです。</p>
川崎部会長	<p>これはあまり本質的ではないかもしれませんが、土台のところに「廃炉に向けた取組」とありますが、通常、「事故収束（廃炉・汚染水処理）」と言うので、「廃炉」に限定せずに「事故収束」という言葉でもいいかと思いました。汚染水問題があつて難しい問題があると思いますが、「事故収束」という言葉がいいのではないかなと思います。</p>
岩崎委員	<p>ほかにいかがでしょうか。岩崎先生、お願いいたします。 先ほどの総合計画の議論に少し戻ってしまうのですが、川崎部会長がおっしゃっていた指標の見直しの点で、例えば帰還者の数や居住者の数というのは、行政サイドから見ると非常に重要な指標だけれども、そこに住んでいる住民にとってはもっと違う指標が必要なのではないかという御指摘はすごく大事で、これは、復興計画の指標を考える上でも、指標というのはやはり避難者や被災者へのメッセージにつながっていくと思うんです。復興計画は、いったい何を重要視して復興を目指していくのかを指し示す指標になると思うので、単に行政の持続性だけではなくて、西崎委員もおっしゃっていたような、住民自身にとって、被災者や避難者にとって、自分たちの暮らしがこれからどういう形で</p>

川崎部会長 事務局	よくなるのか、再建できていくのかがわかるような指標づくりがすごく大事だと思うんですけども、そこはこれから総合計画の策定の中で見直しをかけていくという理解でよろしいでしょうか。
川崎部会長	<p>今の点について、事務局。</p> <p>ありがとうございます。岩崎委員御指摘のとおり、総合計画の策定の中で指標を掲げてまいります。その全体像が見えましたら、復興計画に押さえるべき指標として取り込んでいくことを考えておりますので、そのように進めていきたいと思います。</p>
川崎部会長 事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>順調にいけば、来週、これが成案として決定されるということですので、今週末までに何かお気づきの点があれば事務局までお寄せいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。</p>
川崎部会長 事務局	<p>——そ の 他——</p> <p>以上で議事は終了になります。4「その他」、事務局から何かございますか。</p> <p>事務局から2点、事務連絡をさせていただきます。</p> <p>1点目、部会長から話がありましたが、追加の意見照会をさせていただきたいと思いますので、別途メールでお送りさせていただきます。特に議事の1番の新しい総合計画についてさまざまな御意見を頂きましたが、補足等があればそちらを中心に御意見を頂ければと思います。</p> <p>2点目、今後のスケジュールです。参考資料の3を御覧ください。次回の策定検討部会につきましては、4月23日金曜日の午後1時半からを予定しております。会場は杉妻会館です。改めて正式の通知を発出しますので、御出席よろしくお願いいたします。</p>
川崎部会長	<p>事務局からは以上です。</p> <p>ありがとうございました。以上ですべての議事、その他が終了しましたので、事務局にお返しします。円滑な議事の進行に御協力いただきありがとうございました。</p>
事務局	<p>——閉 会——</p> <p>それでは、以上をもちまして福島県総合計画審議会第5回総合計画・復興計画策定検討部会を閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。</p>

(以 上)